

# 資 料

## 1 沿 革

- 明治43年 宮古町（現：宮古市）にあった岩手県立水産学校の校舎の一部に、岩手県水産試験場を創設  
試験部、庶務部の2部制で発足
- 大正 9年 水産試験場庁舎を釜石町只越（現：釜石市）に移転新築
- 昭和 2年 津軽石、大槌、釜石さけ人工ふ化場を水産試験場に移管
- 4年 2月、水産試験場に漁業用海岸局（無線局）を設置
- 8年 昭和8年3月3日の三陸大津波で、大槌さけ人工ふ化場設備の一切を流失
- 14年 水産試験場庁舎及び漁業用海岸局を釜石市新浜町に移転新築
- 23年 水産試験場に漁船技術員養成所を併設
- 24年 組織を庶務会計部、漁労部、養殖部、製造部の4部制に改編
- 25年 気仙郡赤崎町に赤崎実験所を開設
- 27年 組織を庶務会計部、資源調査部、増殖部、製造部の4部制に改編
- 28年 気仙郡広田町に水産試験場気仙分場を開設。組織を庶務会計部、漁労調査部、製造部の3部制  
に改編
- 31年 漁業用海岸局（無線局）を釜石市大平地区に移転新築
- 35年 組織を庶務部、漁撈調査部、増殖部、製造部の4部制に改編
- 36年 製造部を利用部に改称
- 42年 宮古市大沢に水産種苗センターと下閉伊分場を開設
- 44年 水産試験場庁舎及び附属施設を新築
- 45年 久慈市に水産試験場九戸分場を開設
- 48年 機構改革により庶務部、漁撈調査部、利用部、環境保全部、増殖部の5部制に改組。新たに専  
門技術員が駐在。翌49年、漁撈調査部を漁業部に、利用部を加工部に改称、専門技術員を室  
に改め5部1室制に組織改編
- 53年 専門技術員を林業水産部漁業振興課に移管。
- 54年 大船渡市末崎町に岩手県栽培漁業センターを開設
- 55年 宮古市津軽石に下閉伊分場を移転、開設。
- 56年 機構改革により気仙分場、赤崎実験所、水産種苗センターを廃止。水産試験場の増殖部と下閉  
伊分場、九戸分場を栽培漁業センターに移管、下閉伊分場を宮古分場、九戸分場を久慈分場と  
改称。水産試験場の組織を庶務部、漁業部、加工部、環境保全部の4部制に改編
- 57年 加工実験室を開放実験室として業者に開放
- 62年 九戸郡種市町に北部栽培漁業センターを開設。大船渡市末崎町の栽培漁業センターを南部栽培  
漁業センターに名称変更
- 平成 元年 漁船技術員養成所を廃止
- 6年 3月、釜石市平田に庁舎移転新築。水産試験場及び南部、北部栽培漁業センターを統合して岩  
手県水産技術センターに機構改革。宮古分場の名称をさけ・ます研究室に改称。総務部、企画  
指導部、漁業資源部、利用加工部、増養殖部、種苗開発部、漁場保全部、さけます研究室の7  
部1室制に改組。久慈分場は廃止
- 9年 さけます研究室業務を漁業資源部が所管し、職員は漁業資源部員（3名）が兼務
- 11年 組織改編により水産業専門技術員を本庁から水産技術センターへ移管
- 13年 宮古市津軽石のさけ・ます研究室を廃止

- 18年 岩手県行財政構造改革プログラムにより総務部、企画指導部、漁業資源部、利用加工部、増養殖部及び漁場保全部の6部制に改編
- 19年 マナマコ種苗生産技術開発のため(社)岩手県栽培漁業協会種市事業所に駐在職員を派遣
- 21年 マナマコ種苗生産技術確立により(社)岩手県栽培漁業協会種市事業所への職員駐在終了
- 22年 水産試験場開設から100周年を迎える
- 23年 東日本大震災津波によりセンター施設が被災
- 26年 被災した施設の復旧工事終了

## 2 職員名簿

職 氏 名	転 入 等 の 状 況
所 長 佐 久 間 修	
副 所 長 清 水 道 彦	
副所長兼漁場保全部長 山 口 仁	
首席水産業普及指導員 石 川 豊	
<b>総 務 部</b>	
主 幹 兼 部 長 小 笠 原 博	H27. 4. 1 転入 (前任・県南広域振興局経営企画部)
主 任 新 沼 照 美	
主 事 高 橋 宏 和	H27. 4. 1 転入 (前任・内水面水産技術センター)
<b>企 画 指 導 部</b>	
首席専門研究員兼部長 久 慈 康 支	H27. 4. 1 昇任 (企画指導部長)
上 席 専 門 研 究 員 平 嶋 正 則	H27. 4. 1 昇任 (主査専門研究員)
主 任 専 門 研 究 員 田 中 一 志	
<b>漁 業 資 源 部</b>	
部 長 横 澤 祐 司	
上 席 専 門 研 究 員 小 川 元	
上 席 専 門 研 究 員 後 藤 友 明	
専 門 研 究 員 児 玉 琢 哉	
専 門 研 究 員 山 根 広 大	
技 師 高 梨 愛 梨	
技 師 川 島 拓 也	H27. 4. 1 新採用
<b>利 用 加 工 部</b>	
部 長 菊 池 達 也	
上 席 専 門 研 究 員 上 田 智 広	
主 査 専 門 研 究 員 藤 嶋 敦	
主 査 専 門 研 究 員 小 野 寺 宗 仲	
<b>増 養 殖 部</b>	
部 長 武 蔵 達 也	
上 席 専 門 研 究 員 田 老 孝 則	
上 席 専 門 研 究 員 西 洞 孝 広	
主 査 専 門 研 究 員 堀 越 健	
専 門 研 究 員 大 村 敏 昭	
専 門 研 究 員 貴 志 太 樹	

職 氏 名	転 入 等 の 状 況
<b>漁 場 保 全 部</b> 上 席 専 門 研 究 員 加 賀 克 昌 主 査 専 門 研 究 員 加 賀 新 之 助 主 任 専 門 研 究 員 内 記 公 明 専 門 研 究 員 渡 邊 志 穂	H27. 4. 1 昇任 (主査専門研究員)
<b>岩 手 丸</b> 船 長 心 得 村 上 孝 弘 上 席 機 関 士 湊 光 春 主 査 航 海 士 金 野 善 広 主 査 通 信 士 藤 沢 収 良 機 関 士 小 山 良 宏 航 海 士 中 村 宏 也 航 海 士 武 田 拓 也 操 機 長 佐 々 木 達 光 甲 板 長 三 浦 義 久 雄 甲 板 員 山 崎 久 和 也 佐 野 和 也	H27. 4. 1 (北上丸 船長心得) H27. 7. 13 (北上丸 機関士)
<b>北 上 丸</b> 主 任 航 海 士 藤 井 正 樹 主 査 機 関 士 熊 谷 勇 一 主 任 航 海 士 福 士 正 紀 主 任 通 信 士 黒 沢 清 隆 機 関 士 細 谷 優 太	H27. 4. 1 昇任 (岩手丸 航海士) H27. 4. 1 (岩手丸 主査機関士) H27. 4. 1 新採用 (4. 1～7. 12 岩手丸機関士、7. 13～北上丸機関士)

### 3 表 彰

表 彰 区 分	職 名	氏 名	実 績 の 概 要	受 賞 日
文部科学大臣表彰 (科学技術賞)	主査専門研究員	小野寺宗仲	海藻の高速攪拌塩漬法および装置の開発	H27. 4. 15
業績顕著表彰	主査専門研究員	小野寺宗仲	海藻の高速攪拌塩漬法及び装置の開発並びにその普及	H27. 11. 18
水産海洋学会 宇田賞	上席専門研究員	後藤友明	岩手県の沿岸漁業における東日本大震災からの復旧・復興に関する研究	H28. 3. 14
平成 27 年度 日本水産学会論文賞	主任専門研究員	内記公明	2011 年東北地方太平洋沖地震により発生した津波による岩手県沿岸内湾域の底質変化	H28. 3. 28